

2020（令和2）年度

世界史B選択者対象

## 臨時休業中課題

### Part 2

【課題に取り組むうえでの注意点 など】

1. 先週出した第1弾の課題「世界の偉人の履歴書をつくろう！」は進んでいますか？  
【欧米、アジア、日本、科学者・文化人、女性】の5つのカテゴリそれぞれから1人ずつの偉人を選んで、それぞれの履歴書を完成させてくださいね。先週の課題でも記していましたが、もしプリントアウトできない場合はルーズリーフやレポート用紙にまとめてもOKですので、できるだけ多く(最低5人)の偉人の履歴書を作成しながら、過去の偉人の活躍(つまり「歴史」)について勉強してください！
2. さて、今回は臨時休業中の課題第2弾として、以下の課題を追加します。今回の課題は、休業明けにスムーズに授業が進められるように、最初の数週間で進む予定の範囲を「予習」してもらおうものです。課題の進め方は次のページに記していますので、参考にしながら計画的に進めてください。なお、今回も課題をプリントアウトできない場合はルーズリーフやレポート用紙に取り組んでもOKですので、自分に合った形で課題を進めてください。
3. 今回の課題も提出日は**次回の登校日**とします。春季課題、臨時休業中課題第1弾(「世界の偉人の履歴書をつくろう！」)とともに提出してください。

## ★課題の内容

今回の課題の内容は、教科書を読んでその内容をまとめた課題に取り組んでもらう「予習」です。課題の範囲は3回に分割しています。課題の範囲(教科書のページ等)は各回の課題プリントに示していますので、よく確認して取り組んでください。

## ★課題の取り組み方

今回の課題については各回ごとに次の①～⑤の順に取り組むことをおすすめします。

### ①教科書を読む（1回目）

指示された教科書の範囲を**まずは流し読み**してください。その時に、**無理に理解しようとか、覚えようとかする必要はありません**。わからなくても全然OKぐらいの気持ちでまずは読んでみましょう！

### ②教科書を読みながら（2回目）、次ページ以降の課題プリントに取り組む

**改めて教科書を読みながら、次のページ以降の課題プリントに取り組んでください**。課題プリントは教科書の本文をそのままに、重要な箇所を空欄にしています。

### ③わからなかった用語の意味調べと各回のまとめの記入

②の課題プリントは教科書を読み進めれば埋められるはず。ただ、これだけではなかなか理解できないかもしれないので、**課題に取り組む中でわからなかった用語の意味調べ**をする欄を設けています。辞書やインターネットを活用してもかまいませんので、**自分の理解のためにわからなかった用語の意味調べをしてみましょう！**そのうえで、**【まとめ】欄に各回の内容を教科書の言葉を使いながらまとめてみましょう！**

### ④どれくらい理解できたかな？一問一答形式でCHECK！

**副教材『世界史重要語句 Check List』**の指定された範囲に取り組んで、どれくらい理解できたかをチェックしよう！

### ⑤最後のWEB上で確認テストにChallenge!

**副教材**の指定のページに取り組めたら、**課題プリントの各回の最後に掲載しているQRコードまたはURLから確認テストにチャレンジしてみよう！**確認テストは、副教材と同じ問題で、解答後すぐに正解を確認できるようにしています。つまり、**確認テストに取り組むことで、副教材の答え合わせにもなります。**(ということで、確認テストを通して、**副教材『世界史重要語句 Check List』**の答え合わせもしておいてくださいね！)

課題1 教科書 p.16~19 を読みなさい。

課題2 改めて、教科書 p.16~19 を読みながら、次の文章の\_\_\_\_に適する語句を答えなさい。

《人類の進化》人類が出現してから、文字を発明して歴史を記録に残すようになるまでには、非常に長い年月が必要であった。人類史の99パーセント以上を占めるこの時代を、先史時代という。

人類は猿人・原人・旧人・新人の順に進化した。<sup>1</sup> \_\_\_\_\_ 歩行を特徴とする人類が誕生したのは、今から約700万年前のアフリカにおいてであると考えられている。最初に出現した人類を<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ といい、<sup>3</sup> \_\_\_\_\_ などがこれに属する。そのなかには簡単な<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 石器(礫石器)をもちいるものもいた。やがて、約240万年前、アフリカに<sup>5</sup> \_\_\_\_\_ が登場した。ホモ=ハビリスやホモ=エレクトゥス(ジャワ原人・<sup>6</sup> \_\_\_\_\_ 原人など)がそれに属し、なかでもホモ=エレクトゥスは、<sup>7</sup> \_\_\_\_\_ などの改良された<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 石器と<sup>8</sup> \_\_\_\_\_ を使用して狩猟・採集生活を営んだ。原人は、氷期のきびしい環境を生き抜いて、アフリカからヨーロッパ・東アジア・南アジアにまで広がった。さらに、約60万年前、より進化した<sup>9</sup> \_\_\_\_\_ が出現した。ヨーロッパに分布した<sup>10</sup> \_\_\_\_\_ 人がその代表である。旧人は現代の人類とかわらぬ脳容積をもち、死者を埋葬するなど精神文化を発達させた。彼らはヨーロッパから西アジアにかけて住み、また目的に応じて剥片石器を使用したり、毛皮を身につけるなどして、氷期に適応した生活をおくっていた。

ついで約20万年ほど前にアフリカにあらわれた人類を<sup>11</sup> \_\_\_\_\_ といい、われわれと同じ現生人類(ホモ=サピエンス)に属する。ヨーロッパの<sup>12</sup> \_\_\_\_\_ 人や中国の周口店上洞人などがこれにあたる。新人は剥片石器をつくる技術をさらに進歩させ、また骨や角で作った<sup>13</sup> \_\_\_\_\_ をもちいて生活をより豊かにするとともに、すぐれた洞穴絵画を残した。新人はまもなくアフリカから広がり、アメリカ大陸を含むほぼ全世界に住み着くようになった。人類がこのように<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 石器をもちいて狩猟・採集生活を営んでいた時代を<sup>14</sup> \_\_\_\_\_ 時代と呼ぶ。

《農耕・牧畜の開始と国家の誕生》約1万年前に氷期が終わると地球は温暖化し、自然環境が大きく変化したため、新人は地域ごとの多様な環境に適応しなくてはならなくなった。彼らが環境に適応するなかでもっとも重要だったできごとは、約9000年前の西アジアで、

<sup>15</sup> \_\_\_\_の栽培とヤギ・羊・牛などの飼育が始まったことである。これが<sup>16</sup> \_\_\_\_・\_\_\_\_  
\_\_\_\_の開始である。これにより人類は積極的に自然環境を改変する能力を身につけ、食料  
を生産する生活を営みはじめた。人類史は、狩猟・採集を中心にした<sup>17</sup> \_\_\_\_経済から、  
農耕・牧畜による<sup>18</sup> \_\_\_\_経済に移るという重大な変革をとげたのである。その結果、  
人口は飛躍的に増え、文明発展の基礎が築かれた。

農耕・牧畜が始まると、人類は集落に住み、織物や土器をつくり、また石斧・石臼などの  
<sup>19</sup> \_\_\_\_石器がもちいられた。<sup>20</sup> \_\_\_\_時代の始まりである。このような初期農耕  
民の新石器文化は、アジア・ヨーロッパ・アフリカの各大陸に広がった。

初期の農耕は雨水だけにたより、また肥料をもちいない方法によっていたため、収穫も  
少なく、耕地も移動していた。しかしメソポタミアで<sup>21</sup> \_\_\_\_農業が始まると、食料生  
産が発達してさらに多くの人口をやしなうことが可能になり、多数の人間を統一的に支配  
する国家というしくみがうまれた。こうしてナイル川、ティグリス川とユーフラテス川、  
インダス川、黄河・長江の各流域に文明が誕生し、またややおくれてアメリカ大陸にも独  
自の文明が形成された。そこには宗教と交易の中心である<sup>22</sup> \_\_\_\_が生まれ、支配する  
ものとされるものとのあいだに階級差が生じた。武器や工具などの<sup>23</sup> \_\_\_\_がつく  
られ、また政治や商業の記録を残すための<sup>24</sup> \_\_\_\_が発明された。ここから人類史は、  
<sup>25</sup> \_\_\_\_時代にはいつていった。

《人類と言語の文化》世界各地に拡散した人類がそれぞれの環境に適応していくなかで、  
言語や習慣は多様になり、皮膚や髪の色といった身体的特徴の違いもあらわれた。そこか  
ら人類を人種や民族などの集団にわけると考え方がうまれた。<sup>26</sup> \_\_\_\_による分類とは、身  
長・頭の形・皮膚の色・毛髪といった身体の特徴によって、人類をおおむね白色人種・黄色  
人種・黒色人種に分けようとする考え方である。このような人種の違いを優劣と結びつけ  
る考えは、19世紀以来ヨーロッパやアメリカで盛んになった。しかし今日では、人類を人  
種によって分類したり、人種間に優劣の差があると考えることには、科学的根拠がないと  
されている。他方、言語・宗教・習慣などの文化的特徴によって、人類を<sup>27</sup> \_\_\_\_とい  
う集団にわけると考え方もある。また共通の言語からうまれた同系統の言語グループを<sup>28</sup> \_\_\_\_  
\_\_\_\_と呼ぶ。

【第1回の課題は次のページへ続きます！】

課題3 教科書 p.10～13 に出てきた用語で分からなかったものの意味を調べなさい。

用 語	意 味

また、以下の〔まとめ〕欄に教科書用語を使ってこの範囲の内容をまとめなさい。

〔まとめ〕 ----- ----- ----- ----- -----
--

課題4 副教材『世界史重要語句 Check List』の p.6 に取り組みなさい。

課題5 下のQRコードまたはURLから確認テストにアクセス！副教材『世界史重要語句 Check List』を参考に確認テストにチャレンジしよう！確認テストの最後に正解が表示されるので、副教材『世界史重要語句 Check List』の答え合わせもしておくこと！

〔QRコード〕 	〔URL〕 <a href="https://forms.gle/9HLBDUUB69UZ2a737">https://forms.gle/9HLBDUUB69UZ2a737</a>
--	--

課題1 教科書 p.16~21(11行目まで)を読みなさい。

課題2 改めて、教科書 p.16~21(11行目まで)を読みながら、次の文章の\_\_\_\_に適する語句を答えなさい。

《オリント世界の風土と人々》オリントとはヨーロッパからみた「<sup>1</sup> \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ところ、東方」を意味し、今日「中東」と呼ばれる地方をさす。この地方は、秋から冬にかけての雨季以外には降雨がほとんどなく、しかも気温が高いために、砂漠・草原・岩山をなす地域が多い。そこでは羊やラクダを飼育する遊牧生活に加えて、沿海や河川流域の平野、あるいは点在するオアシスで、小麦・大麦・豆類・オリーブ・ナツメヤシなどを栽培する農業が営まれてきた。とくにティグリス川・ユーフラテス川、ナイル川など大河の流域では、定期的な増水を利用してはやくから<sup>2</sup> \_\_\_\_\_農業がおこなわれ、大規模な定住がすすみ、高度な文明が発達した。

ティグリス川・ユーフラテス川流域の<sup>3</sup> \_\_\_\_\_では、前3000年頃から都市文明が栄えた。この地域にはアラビア半島や周辺の高原からセム語系やインド＝ヨーロッパ語系の遊牧民が豊かな富を求めて移住し、複雑な歴史をくりひろげた。ナイル川のみぐみをうける豊かな<sup>4</sup> \_\_\_\_\_は、一時は異民族の侵入があったが、メソポタミアと異なり砂漠と海にかこまれているため、エジプト語系の人々が長期にわたって高度な文明を営んだ。また両地方を結ぶ交通路にあっていたシリア・<sup>5</sup> \_\_\_\_\_地方は、メソポタミアにかけて「<sup>6</sup> \_\_\_\_\_」を形成し、小麦やオリーブの栽培をおこなうとともに、<sup>7</sup> \_\_\_\_\_語系の人々が地中海の交易に活躍した。

オリント社会では、大河を利用した治水・灌漑をおこなうために、はやくから宗教の権威によって統治する強力な<sup>8</sup> \_\_\_\_\_政治が出現した。その結果、神としての王の権力やその信仰生活のありさまを表現する独特の文化がうみだされた。

《シュメール人の都市国家》灌漑農業の発達したメソポタミア南部では、前3500年頃から人口が急激に増え、<sup>9</sup> \_\_\_\_\_を中心に数多くの大村落が成立した。やがて<sup>10</sup> \_\_\_\_\_が発明され、銅器・青銅器などの金属器が普及しはじめた。

前3000年頃には、神官・戦士・職人・商人などの数が増え、大村落はやがて都市へと発展していった。各都市はそれぞれ独立の道を歩み、前2700年頃までに<sup>11</sup> \_\_\_\_\_・ウルクなど<sup>12</sup> \_\_\_\_\_人(民族系統不明)の都市国家が数多く形成された。これらの都市国家では、王を中心に、神官・役人・戦士などが都市の神をまつり、政治や経

済・軍事の実権をにぎって人々を支配する<sup>13</sup> \_\_\_\_\_ 社会が成立した。

その結果、優勢な都市国家の支配層には莫大な富が集まり、壮大な神殿・宮殿・王墓がつくられて、豪華な<sup>12</sup> \_\_\_\_\_ 文化が栄えたが、前 24 世紀にはセム語系の<sup>14</sup> \_\_\_\_\_ 人によって征服された。

《メソポタミアの統一と周辺地域の動向》アッカド人は、メソポタミアやシリアの都市国家を最初に統一して広大な領域国家をつくった。しかしその崩壊後、かわってセム語系の<sup>15</sup> \_\_\_\_\_ 人が<sup>16</sup> \_\_\_\_\_ (古バビロニア王国)をおこし、<sup>17</sup> \_\_\_\_\_ 王のときに全メソポタミアを支配した。王は運河の大工事をおこなって治水・灌漑をすすめ、また<sup>17</sup> \_\_\_\_\_ 法典を發布して、法に基づく強力な政治をおこなった。この法典によれば、王は神の代理として統治し、刑法は「目には目を、歯には歯を」の<sup>18</sup> \_\_\_\_\_ 法の原則にたっていたが、刑罰は被害者の<sup>19</sup> \_\_\_\_\_ によってちがっていた。

ハンムラビ王の時代に栄えた文明は、周辺の諸民族にもおよび、やがて彼らはその富を求めて侵入や移住をくりかえすことになった。そのうち、はやくから<sup>20</sup> \_\_\_\_\_ 製の武器を使用した<sup>21</sup> \_\_\_\_\_ 語系の<sup>22</sup> \_\_\_\_\_ 人は、前 17 世紀半ば頃アナトリア高原(小アジア)に強力な国家を建設し、メソポタミアにも遠征してバビロン第 1 王朝を滅ぼし、さらにシリアにも進出してエジプトとたたかった。また、<sup>23</sup> \_\_\_\_\_ 人(民族系統不明)はザグロス山脈方面から南メソポタミアに侵入して、バビロン第 1 王朝滅亡後のバビロニアを支配した。さらに北メソポタミアにおこった<sup>24</sup> \_\_\_\_\_ 王国も西方のシリアへと領土を広げ、ヒッタイトに服属するまで強力な国家を保った。こうしてオリエン特世界では前 15～前 14 世紀以降、エジプトの新王国も含めて、諸王国が並立する複雑な政治状況がうまれた。

メソポタミアは<sup>25</sup> \_\_\_\_\_ 教の世界であったが、民族が交替するごとに信仰される最高神もかわった。シュメール人が始めた<sup>26</sup> \_\_\_\_\_ 文字が多くの民族のあいだで使用され、言語が異なってもみな<sup>27</sup> \_\_\_\_\_ に刻んだ<sup>26</sup> \_\_\_\_\_ 文字を使用するようになった。また<sup>28</sup> \_\_\_\_\_ 進法や<sup>29</sup> \_\_\_\_\_ 暦の使用、これに閏年を設けて実際の季節とのずれを補正した<sup>30</sup> \_\_\_\_\_ 暦の誕生など、天文・暦法・数学・農学をはじめとする実用の学問も発達した。

《エジプトの統一国家》メソポタミアとともにもっとも古く文明がおこったエジプトでは、

「エジプトは<sup>31</sup> \_\_\_\_\_」ということばどおり、ナイル川の増減水を利用して豊かな農業がおこなわれた。この流域では、はやくから地域の政治的単位である県（<sup>32</sup> \_\_\_\_\_）がいくつも形成されたが、ナイル川の治水には住民の共同労働と、彼らを統率する強力な指導者が必要であった。そのためエジプトはまもなく統合への道を歩みはじめ、全国統治のための政治組織もしだいにととのえられた。

前 3000 年頃、エジプトではメソポタミアよりはやく、王（<sup>33</sup> \_\_\_\_\_）による統一国家がつけられた。以後、一時的に周辺民族の侵入や外国の支配をうけることもあったが、国内の統一を保つ時代が長く続いた。この間、約 30 の王朝が交替したが、そのうちとくに反映した時代を<sup>34</sup> \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_ の 3 期に区分する。

エジプトでは王が生ける神として専制的な神権政治をおこなった。少数の神官・役人などは、国土の所有者である王から土地を与えられたが、住民の大部分は、生産物への租税と無償労働が課せられる不自由な身分の<sup>35</sup> \_\_\_\_\_ であった。ナイル川下流域の<sup>36</sup> \_\_\_\_\_ を中心に栄えた古王国では、<sup>37</sup> \_\_\_\_\_ 王らがおそらく自分の墓として、巨大な<sup>38</sup> \_\_\_\_\_ を築かせた。これは神である王の絶大な権力を示している。中王国時代には、中心は上エジプトの<sup>39</sup> \_\_\_\_\_ に移ったが、その末期にシリアから遊牧民<sup>40</sup> \_\_\_\_\_ が侵入し、国内は一時混乱した。しかし前 16 世紀に新王国がおこって<sup>40</sup> \_\_\_\_\_ を追放し、さらにシリアへと進出した。前 14 世紀には<sup>41</sup> \_\_\_\_\_（イクナートン）が<sup>42</sup> \_\_\_\_\_ に都を定め、従来の神々の崇拝を禁じて一つの神（<sup>43</sup> \_\_\_\_\_）だけを信仰する改革をおこなった。この改革は王の死によって終わったが、信仰改革の影響で古い伝統にとらわれない写実的な<sup>44</sup> \_\_\_\_\_ 美術がうみだされた。

エジプト人の宗教は太陽神<sup>45</sup> \_\_\_\_\_ を中心とする多神教で、新王国時代には首都テーベの守護神アモンの信仰と結びついて<sup>46</sup> \_\_\_\_\_ の信仰が盛んになった。エジプト人は靈魂の不滅と死後の世界を信じて<sup>47</sup> \_\_\_\_\_ をつくり、「<sup>48</sup> \_\_\_\_\_」を残した。彼らが使用したエジプト文字には、碑文や墓室・石棺などに刻まれる象形文字の<sup>49</sup> \_\_\_\_\_ 文字（ヒエログリフ）と、<sup>50</sup> \_\_\_\_\_ 草からつくった一種の紙（<sup>50</sup> \_\_\_\_\_）に書かれる<sup>51</sup> \_\_\_\_\_ 文字（デモティック）とがあった。また、エジプトで発達した<sup>52</sup> \_\_\_\_\_ 術は、ギリシアの幾何学の基になり、太陰暦とならんでもちいられた<sup>53</sup> \_\_\_\_\_ 暦は、のちのローマで採用されて<sup>54</sup> \_\_\_\_\_ 暦となった。

【第 2 回の課題は次のページへ続きます！】

課題3 教科書 p.16～21 に出てきた用語で分からなかったものの意味を調べなさい。

用 語	意 味

また、以下の〔まとめ〕欄に教科書用語を使ってこの範囲の内容をまとめなさい。

〔まとめ〕 ----- ----- ----- ----- -----
--

課題4 副教材『世界史重要語句 Check List』の p.8 に取り組みなさい。

課題5 下のQRコードまたはURLから確認テストにアクセス！副教材『世界史重要語句 Check List』を参考に確認テストにチャレンジしよう！確認テストの最後に正解が表示されるので、副教材『世界史重要語句 Check List』の答え合わせもしておくこと！

〔QRコード〕 	〔URL〕 <a href="https://forms.gle/gjHoKQHaqn8e8x2C7">https://forms.gle/gjHoKQHaqn8e8x2C7</a>
--	--

課題1 教科書 p.21(12行目から)~27(6行目まで)を読みなさい。

課題2 改めて、教科書 p.21(12行目から)~27(6行目まで)を読みながら、次の文章の\_\_\_に適する語句を答えなさい。

《東地中海世界の諸民族》地中海東岸のシリア・パレスチナ地方は、エジプトとメソポタミアを結ぶ通路として、また地中海への出入り口として、海陸交通の要衝であった。古くは然 1500 年頃からセム語系の<sup>1</sup> \_\_\_\_\_人が交易で活躍した。前 13 世紀頃ギリシア・エーゲ海方面から「<sup>2</sup> \_\_\_\_\_」と呼ばれる人々が進出し、この地方を支配していたエジプト・ヒッタイトの勢力が後退したのに乗じて、<sup>3</sup> \_\_\_\_\_語系のアラム人・フェニキア人・ヘブライ人が活動を開始した。

シリアに多くの都市国家を建設した<sup>4</sup> \_\_\_\_\_人は、前 1200 年頃から<sup>5</sup> \_\_\_\_\_を中心に内陸都市を結ぶ中継貿易に活躍した。そのためアラム語が国際商業語として広く使われるようになり、アラム文字はオリント世界でもちいられる多くの文字の源流となった。

<sup>6</sup> \_\_\_\_\_人は<sup>7</sup> \_\_\_\_\_・ \_\_\_\_\_などの都市国家をつくり、クレタ・ミケーネ文明が衰えた後をうけて地中海貿易を独占し、また北アフリカの<sup>8</sup> \_\_\_\_\_をはじめとする多くの植民都市を建設した。フェニキア人の文化史上の功績は、カナン人の使用した表音文字から線状のフェニキア文字をつくり、これをギリシア人に伝えて、<sup>9</sup> \_\_\_\_\_の起源をつくったことにある。

遊牧民であった<sup>10</sup> \_\_\_\_\_人は、前 1500 年頃パレスチナに定住し、その一部はエジプトに移住した。しかしエジプトでは新王国のファラオによる圧政に苦しみ、前 13 世紀に指導者<sup>11</sup> \_\_\_\_\_に率いられてパレスチナに脱出した(「<sup>12</sup> \_\_\_\_\_」)。前 1000 年頃ヘブライ人は統一王国の基礎を固め、<sup>13</sup> \_\_\_\_\_王とその子<sup>14</sup> \_\_\_\_\_王のもとに栄えたが、<sup>14</sup> \_\_\_\_\_王の死後、国は北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂した。その後、イスラエル王国は<sup>15</sup> \_\_\_\_\_に滅ぼされ(前 722 年)、ユダ王国も<sup>16</sup> \_\_\_\_\_に征服されて、前 586 年、住民の多くは、その都であるバビロンにつれ去られた。これを<sup>17</sup> \_\_\_\_\_という。

ヘブライ人は唯一の神<sup>18</sup> \_\_\_\_\_への信仰を固くまもり、やがてこの全能の神によりユダヤ人(ヘブライ人)が選民としての特別の恩恵を与られているという<sup>19</sup> \_\_\_\_\_

\_\_\_\_思想や、救世主（<sup>20</sup>\_\_\_\_\_）の出現を待望する信仰がうまれた。ユダヤ人は約 50 年後にバビロンから解放されて帰国すると、イエルサレムに <sup>18</sup>\_\_\_\_\_の神殿を再興し、<sup>21</sup>\_\_\_\_\_教を確立した。しかし、やがてその信仰が形式化すると、これに新しい生命の吹き込んだのがイエスである。ユダヤ教の教典『<sup>22</sup>\_\_\_\_\_』は、イエスの教えを伝える『<sup>23</sup>\_\_\_\_\_』とならんでキリスト教の教典となり、のちのヨーロッパ人による思想・芸術活動の大きな源泉となった。

《古代オリエントの統一》前 2 千年紀初めに北メソポタミアにおこった <sup>24</sup>\_\_\_\_\_王国は、小アジア方面との中継貿易によって栄えたが、前 15 世紀には一時ミタンニ王国に服属した。しかしその後独立を回復し、鉄製の武器と戦車・騎兵隊などをもちいて、前 7 世紀前半に全オリエントを征服した。強大な専制君主であったアッシリア王は、政治・軍事・宗教をみずから管理し、国内を州にわけ、<sup>25</sup>\_\_\_\_\_制を設け、各地に総督をおいて統治した。しかしこの大帝国も、重税と圧政によって服属民の反抗をまねき、前 612 年には崩壊して、オリエント世界には <sup>26</sup>\_\_\_\_\_, 小アジアの <sup>27</sup>\_\_\_\_\_, <sup>28</sup>\_\_\_\_\_（カルデア）、イラン高原の <sup>29</sup>\_\_\_\_\_の 4 王国が分立することになった。前 6 世紀半ば、イラン人（ペルシア人）の <sup>30</sup>\_\_\_\_\_が <sup>31</sup>\_\_\_\_\_朝をおこし、メディア王国とリディア王国を征服したのち、前 539 年にはバビロンを開城して、翌年ユダヤ人を捕囚から解放した。第 3 代の <sup>32</sup>\_\_\_\_\_は、西はエーゲ海北岸から東はインダス川にいたる大帝国を建設し、オリエント世界は再び統一された。彼は各州に知事（<sup>33</sup>\_\_\_\_\_）をおいて全国を統治し、「<sup>34</sup>\_\_\_\_\_」「<sup>35</sup>\_\_\_\_\_」と呼ばれる監察官を巡回させて中央集権化をはかった。また金貨・銀貨を発行し、税制をととのえ、海上ではフェニキア人の交易を保護して、財政の基礎を固めた。陸上では全国の要地を結ぶ「<sup>36</sup>\_\_\_\_\_」と呼ばれる国道をつくり、都 <sup>37</sup>\_\_\_\_\_を中心に駅伝制を整備した。服属した異民族には寛容な政治をおこなったが、前 5 世紀前半にギリシアとたたかって敗れ（<sup>38</sup>\_\_\_\_\_戦争）、ついに前 330 年 <sup>39</sup>\_\_\_\_\_大王によって征服された。

イラン人は、領土内の諸民族の文化を統合して建築や工芸などに成果をあげ、また楔形文字を表音化して <sup>40</sup>\_\_\_\_\_文字をつくった。彼らの信仰した <sup>41</sup>\_\_\_\_\_教（拝火教）は、この世を善（光明）の神 <sup>42</sup>\_\_\_\_\_と悪（暗黒）の神 <sup>43</sup>\_\_\_\_\_とのたえまない闘争と説き、人間の幸福は、光明神の恩恵を得て、最後の審判により楽園にはいることにあつた。

《パルティアとササン朝の興亡》地中海に面する<sup>44</sup> \_\_\_\_\_ は、前4世紀後半にギリシアを支配下におき、アレクサンドロス大王は、前334年、東方遠征に出発した。彼は、エジプトを征服したのち、アケメネス朝（ペルシア）を滅ぼし、さらにインド北西部にまで進出して、一時的に東西にまたがる大帝國をつくりあげた。アレクサンドロスが没すると、彼が征服したアジアの領土はすべてギリシア系の<sup>45</sup> \_\_\_\_\_ 朝に受け継がれた。しかし前3世紀半ばに、アム川上流のギリシア人が独立して<sup>46</sup> \_\_\_\_\_ をたてると、遊牧イラン人の族長<sup>47</sup> \_\_\_\_\_ もカスピ海東南部に<sup>48</sup> \_\_\_\_\_ （中国名<sup>49</sup> \_\_\_\_\_）を建国した。パルティアは前2世紀半ばにメソポタミアを併合してのち、ティグリス川東岸の<sup>50</sup> \_\_\_\_\_ に都を定め、東西交易の利益を独占して大いに栄えた。

パルティアを倒して建国したのが、農業に基礎をおくイラン人の<sup>51</sup> \_\_\_\_\_ 朝である。建国の祖<sup>52</sup> \_\_\_\_\_ は、同じく<sup>50</sup> \_\_\_\_\_ に首都をおき、ゾロアスター教を国教に定めて、国の統一をはかった。第2代皇帝の<sup>53</sup> \_\_\_\_\_ は、シリアに侵入してローマ軍を破り、皇帝<sup>54</sup> \_\_\_\_\_ を捕虜とした。また当方ではインダス川西岸にいたる広大に地域を統合し、中央集権的な体制を確立した。

ササン朝は5世紀後半、中央アジアの遊牧民<sup>55</sup> \_\_\_\_\_ の侵入をうけたが、<sup>56</sup> \_\_\_\_\_ の時代にトルコ系遊牧民の<sup>57</sup> \_\_\_\_\_ と結んで<sup>55</sup> \_\_\_\_\_ を滅ぼし、またビザンツ帝国との戦いも優勢にすすめ、和平を結んだ。しかし、ホスロー1世の没後はしだいに衰え、7世紀半ばに新興のイスラーム勢力であるアラブ人によって征服されて滅んだ。

《イラン文明の特徴》初期のパルティアの文化は<sup>58</sup> \_\_\_\_\_ 文化の影響を強くうけ、その王は「ギリシア人を愛するもの」という称号をおびていた。イランの伝統文化が復活はじめると、国内ではギリシアの神々とイランの神々が、ともにまつられるようになった。

つぎのササン朝の時代になると、イランの民族的宗教である<sup>59</sup> \_\_\_\_\_ 教の教典『<sup>60</sup> \_\_\_\_\_』が編集された。3世紀の宗教家<sup>61</sup> \_\_\_\_\_ は、<sup>59</sup> \_\_\_\_\_ 教や仏教・キリスト教を融合して新しく<sup>61</sup> \_\_\_\_\_ 教をおこした。<sup>61</sup> \_\_\_\_\_ 教は国内では異端として弾圧されたが、北アフリカや中央アジアに広まり、唐代の中国にも伝えられた。

ササン朝時代には建築・美術・工芸の分野が大いに発達した。精巧につくられた銀器・ガラス器・毛織物・彩釉陶器の技術や様式は、つぎのイスラーム時代へと受け継がれるとともに、西方ではビザンツ帝国を経て地中海世界に、東方では南北朝・隋唐時代の中国を経て、飛鳥・奈良時代の日本にまで伝えられた。法隆寺の<sup>62</sup> \_\_\_\_\_, 正倉院の<sup>63</sup> \_\_\_\_\_などはその代表的な例として知られる。

課題3 教科書 p.21～27 に出てきた用語で分からなかったものの意味を調べなさい。

用 語	意 味

また、以下の〔まとめ〕欄に教科書用語を使ってこの範囲の内容をまとめなさい。

〔まとめ〕 <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
--

課題4 副教材『世界史重要語句 Check List』の p.10 に取り組みなさい。

【課題5 (確認テストの QR コード, URL) は次のページにあります！】

課題 5 下の QR コードまたは URL から確認テストにアクセス！副教材『世界史重要語句 Check List』を参考に確認テストにチャレンジしよう！確認テストの最後に正解が表示されるので、副教材『世界史重要語句 Check List』の答え合わせもしておくこと！

〔QR コード〕 	〔URL〕 <a href="https://forms.gle/KAwAtyb2KJUbzymbB9">https://forms.gle/KAwAtyb2KJUbzymbB9</a>
---	--